

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1273600260		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム スピリット		
所在地	千葉県印西市大森2 2 2 8-1 (電話 0476-40-2410)		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年3月18日	評価確定日	平成19年 4月20日

【情報提供票より】 (19年 2月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 2人, 非常勤 10人,	常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (2 月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉ニュータウンクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当事業所を運営する法人経営の介護老人保健施設、ケアハウス、デイサービスの施設にほぼ隣接するような立地で、密接な交流を行っているため安心感があります。法人理事長は医師で、他の医師と輪番で毎日往診するだけでなく、得意の楽器(二胡等)持参でふらりとやってきて昔懐かしい音楽を演奏するので、気さくなお医者さんとして利用者に親しまれています。建物は9室の個室を持つ平屋建てで、まだ新しく清潔感に溢れ、スペースもゆとりがあります。食事は居間・食堂と同じ場所で手作りの食事が作られ家庭的な感じがします。畑地の中にあり、野菜の栽培などをしながら、のんびりと散歩もでき、環境にも恵まれています。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では改善課題は殆どありませんでした。ただ一つ、職員のストレス解消のため管理者が努力すべきとの点は、途中で管理者が替わったため新管理者が管理事務の習熟に追われたこともあり、未だ完全に解決されたとは言えません。今後利用者への支援に職員と一緒に関わっていくことにより改善されるものと思われま。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価を行う過程で、管理者は今まで気づかずにいたことの重要性を認識することとなり、改善を図っています。例えば、以前は職員の大幅な異動に際しても、家族や利用者に対し特別な配慮はしていませんでした。災害時に備え地域の人達に働きかけておくことの大切さも同様に認識が深まりました。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、民生委員を含め地域の人達に当事業所の理解を深めるような話し合いを行ってきました。また市役所職員の話から、地域密着型のサービス事業所として、行事への家族・地域の参加の重要性を認識することとなり、花見の会や運営法人の主催するコンサートへの参加を呼びかけることに繋がっています。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 契約時に相談・苦情制度について説明する他、玄関にもビラを貼り制度への注目を促しています。さらに、家族向け、利用者向けに別々のご意見箱を設け意見を吸い上げるための努力をしています。しかし出される意見は、照明が暗いのではという程度のもので、これにはすぐに対応していません。外部評価の際に行われる利用者調査に対し全員の回答を促し、改善に繋げるのも一法かもしれません。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) すぐ近くに隣接するように当事業所を運営する法人の介護老人保健施設、ケアハウス、デイサービス等の施設があり、密接に連携しています。市役所も近く接触する機会が多く、介護相談員も毎月来所しています。幼稚園との交流、近隣の住民から野菜栽培の指導を受ける等の交流も行っています。地域の人達を交えた災害時の訓練を行うことが今後の課題です。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	科学的でかつ適正な医療ならびに老人保健福祉を普及するという法人の理念の下、利用者本位の適切なサービスを、「家族的な雰囲気を目指して」提供することの独自の運営方針を掲げています。しかし、地域密着型サービスとしての役割を目指したものには未だ改められていません。	○	日常生活の中で、地域との交流を目指した活動も行われていないわけではありませんが、職員全員が力を合わせて同じ目標に向かって活動し、成果を挙げるためには、地域住民との交流の下での生活実現のため、地域ニーズにあった理念を具体的に掲げることが必要です。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りのためのミーティングで、管理者が理念を唱え、職員一同が復唱しています。こうすることにより、職員間で理念を共有し、日々新たに実践への気持ちを高めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ近くの当事業所を運営する法人経営の介護老人保健施設、ケアハウス、デイサービス等の施設と密接な交流があります。畑地の中にあつて近隣住民は多くありませんが、野菜栽培の指導を受けたり、幼稚園の行事に参加したり園児の訪問を受けたり、法人主催のコンサートに地域の住民を招いたりしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の過程の中で職員の異動等による利用者への影響に配慮することが必要であると初めて気づき、利用者により説明し、職員の提案に基づき利用者を交えたお別れ会を行う様に改善したと云うことです。職員の面接でも外部評価への関心の高さが確認されました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、民生委員を含めた地域住民への当事業所の理解が深まっていることが、議事録から確認されます。また、市役所職員の話から、地域密着型のサービス事業所として行事への家族・地域の人達の参加が重要なことを理解し、事業所の入り口に花見会への参加を促すビラを掲げたりしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近いこともあり、2ヶ月に1回程度は市役所で行われる講習等の様々な催しに職員を参加させたりして情報交換を行っています。また、毎月1回介護相談員が来訪し、利用者のお話を聞いています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「スピリットだより」を発行し家族に送付しています。これは写真主体のA4版1枚もので、見やすく親しみやすいものです。現在は複写機によるコピー版ですが、デジタルカメラでカラー印刷すればもっと良いものとなります。職員の異動等の連絡については、自己評価の過程で必要性を認識、今後改善するということです。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談については、内部窓口・外部機関を重要事項説明書で紹介し、施設入り口にも掲示しています。また家族・利用者別のご意見箱を置く等して、意見の吸い上げに努めています。家族からは照明が暗いとの意見が寄せられた例がありますが、利用者が消してしまうため、職員は明るくするよう努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は大幅な職員の入れ替えも家族や利用者に対し配慮せずに行っていました。今回の自己評価を行う過程で、重要性に気づき、今後異動はできるだけ避けるようにし、やむを得ず交代する場合はよく説明し、利用者とのお別れ会を開くように改善されつつあります。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修会には積極的に参加させています。また内部では、職員間で年間に研修したい項目を選び、年初に毎月のテーマと担当者を決めて、計画的かつ着実に全員に研修の機会を与えています。食事は手作りのため、若い職員にとっては料理を学ぶ良い機会です。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1ヶ所のグループホームとは、共同で餅つき大会を行ったりして、交流を深めています。また、もう1ヶ所を加え、3グループホームがお互いに職員の見学会を行っており、それぞれ異なるタイプのグループホームだけに、職員の刺激になり、参考になることが多いようです。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に家族から本人の情報を聞きアセスメントフェイスシート記入をおこなっています。また、利用者に施設内見学をしたりして具体的なイメージを持ってもらい、実情を良く浸透させたいので、段階を追ってゆっくりと実際の介護につなげています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の何気ない会話を大切にしており、職員と利用者共に畑作りをしたり、利用者の経験を活かして漬物作りを教わったり、生花の指導を活かして職員と地域に出向き教えたりして、互いに支えあう関係作りがなされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望とか訴えは可能な限り受け入れられており、本人の個性を尊重し、無理のないよう上手く予定に組み込んでケアの支援を行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回の職員会議・全体会議での職員の意見や、家族・利用者本人と必要な関係者間で話し合いが行われています。苑になかなか来られない家族にはホームから電話をする等積極的に働きかけています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の実施期間は3ヶ月とし、変化が生じたり見直しがある場合は随時検討し、関係機関とも密に連絡をとって新たな計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である医療法人の施設が向かい側にあり、その施設と連携をとり、いかなる状態でも対応できるように柔軟な支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を最優先し、本人の馴染みの病院を利用したり、希望する病院へは医者である理事長より紹介状を出して支援を行っています。体調の変化なども見逃さないよう注意が行き届いています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最後まで終末期ケアを行い看取ってあげたいというスタッフの希望が多いので、方針を決めみんなでその方針を共有できるよう、医療機関と一緒に模索しているところです。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには、十分な配慮がなされており、個人情報使用同意書の内容および保護方針を重んじて、個人情報を含む書類は厳重な方法で保管することによりプライバシーを守っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意向を最大限に尊重し、本人の時間、希望等を取り入れて、本人のペースを守れるようさりげなく支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスよく職員が配置され、「楽しい雰囲気作り」をしながら食事がされています。嗜好調査の結果を基に手づくりの食事を提供しているスタッフと利用者が協力しながら、家庭的な雰囲気のなかで食事の準備が行われています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には好きな時に何時でも入浴できるように対応しています。中には入浴を好まない利用者もあり、その場合は、可能な時間帯に職員が利用者をうまく誘導して入浴させる体制をとっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生き生きとした生活が送れるように毎月一人ひとりの個人目標をたて、職員・利用者が一緒になって楽しみを味わえるような支援がなされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、毎日ホームの周りを散歩しています。男性利用者のように1日に1回～2回犬の散歩を日課としている方もいます。そのほか、適時近くの公園や近郊にドライブ外出にでかけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠せず、玄関に取り付けた鈴で外出を察知できるようにしており、出入りは自由になっています。夜間には鍵をかけています。現在、徘徊者は有りませんが、レベル度に合わせ必要になれば、備え付けのセンサーを稼働させることも可能です。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内は禁煙です。消防訓練は年2回、内1回は消防署立ち会いの下で行っています。すぐ近くに同一法人の運営する老健施設等があり、緊急時には支援を受けられる体制になっています。事業所は今後はその他の地域の住民とも訓練を行いたいと考えています。災害に備えての備蓄は行っていません。	○	高齢な利用者を多数抱えているだけに、万一の災害の場合にも、外部からの支援が来るまでの少しの間をしのげるよう、食料・飲料水の備蓄、ヘルメット・タオル・毛布等の備えが必要です。普段から地域の人々の協力を得られるよう働きかけておくことも重要です。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えカロリーも計算して、栄養士に相談しながら細かい献立表をたてています。食事摂取量、水分摂取量には、特に気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が新しいこともあり、共用スペースはいずれも清潔感があります。食堂兼居間は広く、テーブルが二つ、更に長椅子もあり、思い思いの場所で寛げるようになっています。開口部が広く外がよく見え、居ながらにして季節感を味わえます。同じスペース内の台所で料理を手作りしているので生活感も十分です。風呂も、3ヶ所のトイレもゆったりしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は電気・エアコン洗面台を除いては全て個人の持ち込みで、それぞれ馴染みのものが置かれています。写真・絵画・自作の塗り絵、生け花等思い思いのものが飾られており、テレビもあり、居室内では自分だけの世界に浸れるようになっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。